

【いきいきと巡って、買って、復興支援】-岩手県一関市藤沢市民センター-

1. 事業の内容・工夫

(1)実施主体

一関市藤沢市民センター

(2)連携・協働団体

一関市
藤沢町住民自治協議会

(3)実施内容

○事業名「**みんなといてみっぺす！いきいき巡り**」

○H30年度企画

三陸鉄道レトロな貸し切り列車の旅

- ・三陸鉄道レトロ列車乗車(盛駅～釜石駅間)
- ・三陸の海鮮の買い物
- ・仕出し弁当での車内会食
- ・三鉄のガイドによる復興状況説明



キーポイント: 買い物+小旅行+復興支援⇒ウキウキ感

取組の工夫

- ① **ネーミングに方言**を入れることで、事業に高齢者が親しみやすいようにした。
- ② 活動場所を**沿岸部**にすることで、参加者に「**震災からの復興**」視察と支援という目的を持たせた。
- ③ 全世帯へ**市民センター広報と告知放送**を通じ、事業の周知に努めた。
- ④ **車両1両貸し切り**にすることで、参加者が気兼ねなく会話できる環境にした。



2. 事業のきっかけ(取組の背景)

(1)高齢者割合の増加(H24 33.70%→H30 39.26%)

⇒独居老人など様々な生活環境の高齢者がいる。

(2)地元商店の減少と公共交通機関の脆弱化、高齢化により外出機会が減少。

⇒高齢者の「買い物難民」化が進んでいる。

(3)地域の交流行事に参加しない高齢者の増加。

⇒見守りが必要な高齢者が増えている。

⇒交流するきっかけを必要としている人がいるのではないか。

(4)被災地を応援したい。

⇒三陸鉄道が開通。

⇒高齢者も何らかの支援をして、被災地を応援したい。

3. 担当者の所感、参加者の声

・車を持っていない人や遠出ができない人、家にこもりがちな人、一人暮らしの人等に出かける機会をつくり、交流や買い物を楽しんでもらっている。

・参加者から、「何年かぶりに偶然知人にあつた。」「みんなのおしゃべりが楽しかった。」「震災後の復興状況をみる事ができた。」「とても楽しかったので来年も予約する。」等の声があつた。

4. 今後の展開

・次年度以降の実施予定について⇒**継続して実施**

募集前から問い合わせがあるほど地域住民の関心が高い事業である。
定員を増やせるよう関係機関と調整していくことが課題である。